



今どきの高齢者の実態と本音を  
明るく楽しく紹介するエッセイスト

小川有里さん(谷郷)

今月紹介する小川有里さんは、女性、夫婦、家族、育児、介護、社会現象をテーマに新聞や雑誌などに執筆しているエッセイストです。

「幼いころから空想したり、文章を書いたりすることが大好きでした」と語る小川さん。転勤族の夫と結婚し、さまざまな地で子育てをしながら出版社が主催するコンテストに自身の作品を投稿していました。童話や短編小説などさまざまなジャンルで、何回も入選したそうです。30代が終わるころ、雑誌の編集者から誘いを受けプロの作家に。短編集を出版するために執筆活動に励む傍ら、介護雑誌のライターとしても活躍しました。

介護雑誌が終刊になると、小川さんはエッセイストの道へ。平成15年から週刊誌「サンデー毎日」に民間会社を定年退職した夫をモデルにした「定年チーパッパ」を連載。その後も「定年オヤジのしつけ方」「加齢なる日々」定年お



じさんの放課後」「おばさん事典」といった庶民的な60歳以上の人の日常や生態にスポットを当てた著書を発表しました。その理由を「自分も年齢を重ねてきたからでしょうね。日頃から感じていることを書くことで、自然と愚痴も減ってきました」と笑顔で語ります。

今年8月には最新作「強いおばさん弱いおじさん」を発売。これは週刊誌に連載しているものを書籍化したもので、各地の友人などへの取材や自身の体験談を基に、若々しくて人間味豊かな今どきの高齢者の姿や本音がつづられています。中には思わず噴き出してしまいうエピソードも。「明るい本なので、心が晴れない方にぜひ読んでもらいたいです。きっと気持ちがいい方になりますよ」と小川さんは顔をほころばせます。

現在も地方紙や週刊誌に連載している小川さんは、午前5時から自宅の仕事部屋で執筆活動に励んでいます。「読者の共感を得られるよう切り口や表現方法、文章の構成を頭の中で『発酵』させてからパソコンに打ち込むのが私のスタイル。ただし、仕事をするのは昼間だけ。楽しみは、頑張ったご褒美に夕食時にビールを飲むことです」とお茶目な一面もぞかれます。「今度はどんなことを書こうかな。日常生活にアンテナを張り巡らせ、小川さんは毎週締切日と戦っています。「大好きな仕事ですから緊張する時間もまた楽しいです」と。

はじめまして



平成27年2月生まれのお子さんを募集します

○12月1日(火)~28日(月)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)  
※応募要領は市ホームページをご覧ください。  
○応募者多数の場合は、1月4日(月)午後2時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



★★★平成26年12月生まれのおともだち★★★



高橋 志歩ちゃん(持田)  
平成26年12月12日生まれ  
父・伸一さん 母・美里さん  
「元気がいっぱいになってね」



羽田 航ちゃん(富士見町)  
平成26年12月30日生まれ  
父・周平さん 母・昌子さん  
「のびのび元気に育ってね☆」



小林 瑛陽ちゃん(深水町)  
平成26年12月15日生まれ  
父・俊博さん 母・郁恵さん  
「すっこのままできてね♡」



酒井 ゆかりちゃん(埼玉)  
平成26年12月20日生まれ  
父・聡さん 母・文さん  
「ゆかりのおかげで  
毎日楽しいです」



新井 誠人ちゃん(白川戸)  
平成26年12月12日生まれ  
父・啓晋さん 母・亜美さん  
「この笑顔...  
し、っあわせです!」



寺島 和希ちゃん(長野)  
平成26年12月11日生まれ  
父・徹さん 母・奈保美さん  
「跡継ぎよろしくねー(笑)」

ぎょうだの会社を  
クローズアップ!!!

株式会社RESOMO55

夢の実現に向け新たな事業に挑戦



会社プロフィール

代表取締役 清水 聡博  
【事業内容】中古衣料販売・買取、ダンススタジオ運営  
【住所】持田2229-3

125号バイパス沿いにある黄色い看板が目印の衣類のリサイクル専門店、キングファミリー行田店。この店舗を運営しているのが、今月紹介する株式会社RESOMO55です。  
同社では、主に衣類や服飾雑貨・小物の買取・販売を行っています。買取率が9割以上であることから毎日のように多くの衣類が持ち込まれ、その量は1カ月に15トンにもなるそうです。  
「店頭には並べられない痛みや汚れのある衣類でも大歓迎です。機械器具類の清掃に用いる布切れや車の中綿などの素材として韓国や東南アジアへ輸出することができるとは、高品質買取を実現する仕組みを教えてくださいました。  
また、近年同社が力を入れているのがダンススタジオ運営です。まったく異なる事業を始めたきっかけを清水さんは「1人の従業員がダンススタジオを持つことを目標に一生涯懸命に働いていく姿を見て、一緒に夢を実現したいと思ったんです」と語ります。県の経営

革新計画承認制度を活用し、3年前に店舗2階にダンススタジオ「ミュージックダンススタジオ55ミニッツ」をオープン。現在は、小学1年生から中学3年生まで30人が週2回ヒップホップのダンスレッスンに励み、浮き城まつりや警察署などのイベント、さらにはコンテストにも積極的に参加しています。保護者からも好評で「自分の子どもが自信を持ってパフォーマンスする姿を見られてうれしい」「新たな一面を知ることができた」と子どもの成長を喜ぶ声が多く聞かれるそうです。  
今後の展望について清水さんは「ジャズやブレイク、リズムなど子供たちがさまざまなジャンルのダンスに挑戦できるようにインストラクターを増やしていきたいと考えています」と力強く語ります。「多くの人にダンスの楽しさを知ってもらい、いつか行田をダンスのまちにしたい」。新たな夢の実現に向けて、同社の挑戦は始まったばかりです。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。  
◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で  
広報広聴課へご応募ください。

- |                |            |                 |           |
|----------------|------------|-----------------|-----------|
| 俳句             | 荒木 小林 康男   | 湯豆腐や会話も弾む三世代    | 忍 飯島 素子   |
| 冬耕やひとり鉄音聞きながら  | 荒木 藤田 明枝   | 帰り花夢追いかけて紅を引く   | 城西 鈴木 正夫  |
| 冬帽子ふたり寄り添ひ五十年  | 齋条 小林 英与   | 長らえて百寿の集い秋彼岸    | 桜町 長谷川 さく |
| 告別の主見送る葱畑      | 樋上 吉澤とし子   | 平和謝す秋空の果て戦火あり   | 南河原 今村 文女 |
| 亡き姉の形見となりぬ藤袴   | 向町 渡月 峯    | 背丈伸びはにかむ曾孫豊の秋   | 荒木 高澤 よね子 |
| 風紋の変わり身速し秋の川   | 門井町 嶋田 茂   | 新米や心に重きT P P    | 谷郷 大谷 峯生  |
| 上越の雪の便りを風に聞く   | 荒木 藤田 栄之   | 眼を病みて読書の秋も遠ざかり  | 佐間 須永 節子  |
| 光陰は一瞬の夢星流る     | 持田 二瓶 弘子   | 秋空やはるばる利根へコウノトリ | 下中条 梶原 銃司 |
| 故郷の訛を添えて柿届く    | 荒木 森田 静    | 冬の旅背節正しく永平寺     | 持田 関口 操   |
| 短日や母の手仕事おぼつかず  | 富士見町 鈴木スイ子 | ほんのりと松茸の香や古稀の膳  | 荒木 手島 一海  |
| 银杏散る釣り人の背の丸きかな |            | (三沢 一水 監修)      |           |

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。  
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。